

2017.10月
総選挙
ご報告 &
これから

かなおと 菅直人の市民政治レポート

2017年12月15日発行/号外

■編集発行：菅直人を応援する会 / 〒180-0006 武蔵野市中町1-2-9 サンローゼ武蔵野302 Tel: 0422-55-7010



立憲民主党を 市民参加型の政党へ

裏面 ● 《アルバム》2017総選挙を振り返って
「市民ふらっと集会」スタート / 党員・サポーター仮登録受付中

総選挙が終わりました。幅広い多くの方々の応援をいただき、今回は小選挙区での当選を果たすことができました(右頁上参照)。感謝の気持ちでいっぱいです。

野党第一党「立憲民主党」誕生！

今回の総選挙は9月半ばの安倍総理による突然の解散報道から始まりました。選挙が始まるまでの1か月足らずの間に、まず9月25日に小池都知事の希望の党の結成宣言があり、9月28日臨時国会の召集と同時に国会が解散。同日午後には民進党の前原代表が希望の党への合流方針を両院総会で提案し、全体での合流を前提として承認されました。しかしその後、小池都知事の「排除します」発言が飛び出したのです。

小池発言を聞いて私自身は、無所属での立候補を覚悟する一方で、民進党内のリベラルな政治家による新党の可能性を探っていました。10月2日、枝野幸男氏が最終的に覚悟を決めて「立憲民主党」の立ち上げを宣言し、直後に私は参加を表明。10月10日の公示まで極めて限られた時間でしたが、立憲民主党は68名の公認候補を擁立し、54名が当選を果たして野党第一党となりました。

目を向けるべきは 永田町ではなく「国民」



今回の総選挙で、野党の状況は激変。これまで野党第一党であった「民進党」が、「立憲民主党」「希望の党」「衆議院の無所属の会」「残留した民進党」と4分割されました。

「立憲民主党」は筋を通したと多くの国民から期待され支持を得ることができて躍進しましたが、これからが正念場です。枝野代表は「国民が政治から離れているのではない。政治が国民から離れているのだ」と述べていますが、まず政治、そして政党を国民に近いものにすることに最大限の努力を払うべきです。

まずやるべきは国民が参加しやすく、意見が届く政党になることです。政治に自分の意見を反映させたいと思っている人々に、色々な形で参加していただける場を提供することが重要。私は早速SNSを通して呼びかけ、

誰でも気軽に参加して意見交換ができる「市民ふらっと集会」をスタートさせました(※裏面参照)。また、将来的には国政選挙の候補者選びに、アメリカのように予備選挙を導入することなども検討すべきと考えています。

「働く」ことと「生活」の 両方の場からの声を代表する政党へ

従来の野党第一党は、大企業の労働組合を中心とした連合とは恒常的に深い関係を築いてきました。これは重要なことです。しかし生活面の運動、例えば生協運動、環境運動、子育てや福祉にかかわる運動などとの関係は、労働運動に比べると希薄でした。立憲民主党が政権を担える政党になるためには「働く」と「生活」という両方の場からの声を代表する政党でなければなりません。

例えば参院の比例代表選です。自民党は各種業界団体の代表を候補者にしていきます。野党第一党は労働組合の推薦する候補者は必ず何人か擁立してきましたが、生活面を代表する候補者はまれでした。環境問題や福祉問題などに関わっている市民団体は、全国的に力を合わせることであれば代表を国会に送ることができます。立憲民主党はそのためのプラットフォームを提供すべきです。

政治を国民に近づけるために、立憲民主党は国民が抱える多くの問題を受け止めることのできる政党にならなくてはなりません。いろいろな社会活動に参加している人々に集って欲しいと願っています。

戦争へと向かいかわない 「集団的自衛権」には NO



総選挙全体では自民党が圧勝し、自公の与党が解散前と同様3分の2を超す議席を占めました。しかし自民党の比例区での得票率は33%程度で、小選挙区でも有権者全体に占める自民党の得票は25%程度でしかありません。野党分立による小選挙区制の「漁夫の利」により、議席数で見れば自民党圧勝の結果となりました。

この結果を受けて、11月1日から12月9日の日程で特別国会が開かれました。安倍総理は再び首班指名を受け総理になりましたが、その足元は決して盤石とは言えま



10月22日夜、当選の報を受けて駆けつけてくださった支援者の方々と

選挙結果

菅直人(前) 立憲民主党 96,713票
土屋正忠(前) 自由民主党 95,667票
ときた敦(新) 希望の党 45,081票

わずか1,046票の僅差で、私が小選挙区で勝利。土屋氏は73歳以上は重複立候補できないという自民党のルールのために、議席を失う結果となりました。

私と土屋氏の共通点は二人とも世襲候補ではなく、私は市民運動を経験し、土屋氏は市議、市長を経験し、いわばたたき上げの候補であるという点です。ライバルではありますが、どこかで相手を認め合っていたように思います。
【菅直人ブログ「今日の一言より」】



せん。自民党内でも公然と批判を口にする議員が出始めており、来年の総裁選での3選は不透明です。

こうした問題を抱えている安倍総理ですが、北朝鮮危機を背景に“集団的自衛権を認める憲法9条の改正”を含む、悲願である憲法改正を進めようとしています。しかし北朝鮮危機には日本自体の防衛として個別的自衛権で対処可能であり、集団的自衛権を認める必要はありません。いったん集団的自衛権を認めれば海外での戦争に自衛隊の派遣を要請されることは必至です。

野党は各々の立ち位置を明確にし、 国会では一致する範囲で協力を

国会での代表質問と人事が固まる中で、各党の政治的立ち位置が明確になりました。

立憲民主党の枝野代表は安倍総理の憲法改正に真正面から反対する論陣を張り、解散権の制約や情報公開などでの憲法議論は積極的に取り組む姿勢も併せて示しました。

希望の党の玉木代表は代表質問では憲法に関して慎重な言い回しでしたが、安全保障について元々自民党と同じ考えの長島氏を政調会長に、憲法調査会長にも憲法改正に積極的な細野氏を起用しました。この布陣から、安倍自民党の改憲に協力しかねない立ち位置だとはっきりわかります。

また、無所属の会代表の岡田氏は安倍総理の政治姿勢を激しく批判、民進党の大塚代表は経済中心の質問で、両者とも憲法議論には踏み込みませんでした。

主要な政治テーマについて大きく立ち位置が異なる議員が集まっても、国民の期待には応えられないというのがこれまでの反省です。マスコミは「政権交代のために野党再編が必要」と強調しますが、国民にとっては政権交代自体が重要なのではなく、結果的によい政治を行うことが重要なのです。

他方、国会においては、圧倒的多数の与党に対して野党協力が不可欠です。ただし、違うものを無理やり一つにまとめるのではなく、相違点を各党が明確にした上で、一致する範囲での協力を「見える形」で行うべきです。たとえば、国会での野党の質疑時間を大幅に圧縮しよ

うとしている自民党に対して野党は結束して当たらなくてはなりません。議院内閣制の我が国の場合、予算や大半の法案は政府提案で、事前に与党内で議論、了承した案件です。そのため、国会は野党が中心の質疑になっているのです。私も総理の時、当時の野党自民党議員から厳しい質問が多くありましたが、発言時間を制限して口を封じることなど考えもしませんでした。国会審議に耐えられない総理に、日本の総理を務める資格はありません。野党は協力して森友、加計問題をはじめ権力の私物化など徹底的に論戦を挑むべきです。

「立憲民主党」を 草の根に根差した政党に育てるために

希望の党など野党の混迷が続く中で、立憲民主党の責任が一層重くなってきています。

私は国民から信頼され、政権交代の可能性を持った政党に「立憲民主党」を大きく育てるため、縁の下の力持ちとして頑張っていく覚悟です。これからも変わらないご支援をよろしくお願い申し上げます。

●原発ゼロ実現の国民運動の先頭に、立憲民主党が立つ

12月7日、立憲民主党のエネルギー調査会がスタート。会長に逢坂誠二、事務局長に山崎誠議員が就任し、私も顧問になりました。第一回会合では枝野代表から、「一日も早い原発ゼロ実現のため、党を挙げてハードルを乗り越える」と決意表明がありました。

立憲民主党は公約で『原発ゼロ基本法』策定』を掲げています。原発ゼロの実現には、原発ゼロ政策のリアリティと政治力が必要。政策はすでに論点は出し尽くされて準備はできていますから、残るは政治力です。他国の例を見ても、原発ゼロを明確に主張した政党が大きな国民的支持を選挙を通じて得た時に、初めて原発ゼロが政府の方針として決定され、実現しています。

野党第一党で、原発維持派の議員が一人もいない立憲民主党が、原発ゼロを求める多くの国民のみなさんの力を結集し、原発ゼロを実現するチャンスです。積極的に働きかけて行きます。

●原発事故避難者の住宅立ち退き訴訟に関する質問主意書

12月6日提出。福島原発事故は国と東電の責任であることを認めながら、最も厳しい状況にある避難者に対し、国が所管する機構が立ち退き訴訟を起こしていること自体大問題。しかも、機構は訴訟を出した後に提供していた住宅を民間会社に売却するという無茶苦茶な対応をしていたことが判明。この責任を安倍内閣に問いました。

Activity Report

活動報告

報告

11月の市民ふらっと集会

主催 立憲民主党チーム18 (仮称)

選挙後、「政治の側から国民に近づく」を実行するために、誰でもが「ふらっと」気軽に参加して、意見を言ったり話し合えたり、議員に質問をぶつけたりできる、「フラット」な場と機会の提供を地元・東京18区でまずスタートしました。

第1回は11月11日(土)13:00~15:00、第2回は11月14日(火)19:30~21:30。昼は子ども連れで参加がし

国民のみなさんと共に歩む政治を実現するため、新しい試みスタート！

告知 & 報告は主に Twitterで

やすく、夜は仕事帰りに立ち寄れる時間設定にしました。いずれもJR三鷹駅北口から徒歩圏内のスペースです。参加の呼びかけ(告知)はツイッターとフェイスブックのみというスタイルを試みたためか、20~40代、女性の参加が目立ち、赤ちゃんや子ども連れの姿も。また、東京18区外からの参加者が7~8割ありました。

1回目37名、2回目52名の参加者から冒頭、ひとり1分間をめぐり、自己紹介と伝えたい&聞きたいことを話していただき、これだけで1時間以上かかりました。政治家が一方向的に話すよりも、まずみなさんの話を聞くことが重要と考えたからです。

その後、菅直人から立憲民主党の最

近の動向、介護や保育で働く人の待遇改善がサービスの向上だけでなく個人消費を拡大して景気の回復にもつながるとの話、ベーシック・インカムの話、アメリカの予備選挙のように国政候補者の選出に地域の有権者がかかわれる仕組みの話、そして福島原発事故についての話をした後、いくつかの質問にも答えました。

話し足りない方も多く、第2回は終



●第1回:武蔵野市市民文化会館

了後に希望者で二次会に流れ、さらにざっくばらんな話ことができました。

もっと語り合いたい、聞きたい、勉強したい、手伝いたい、積極的に政策立案に関わりたい、との声もあり、3回目以降の課題となっています。

今後も「立憲民主党」という政党を国民にとって身近なものにするには何をすべきかを考え、実践してゆきたいと考えます。



●第2回:かたらいの道・市民スペース

Activity Report

活動報告

立憲民主党

The Constitutional Democratic Party of Japan

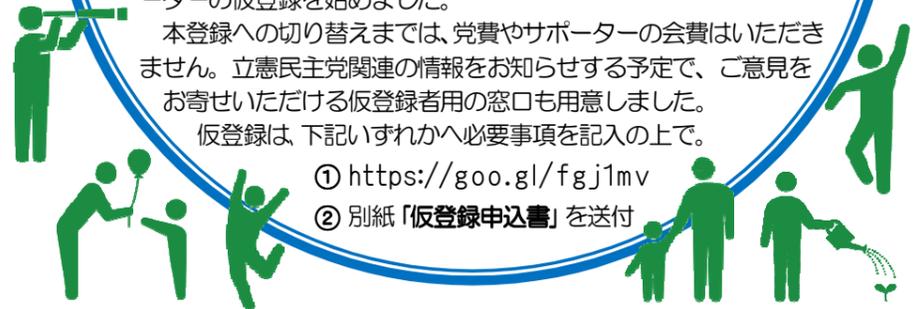
東京都第18区総支部(府中・小金井・武蔵野)で 党員・サポーターの仮登録を受付中!!

《立憲民主党東京都第18区総支部長:菅直人》

立憲民主党に参加したいとの問い合わせを数多くいただいています。いま立憲民主党本部は組織の在り方などのルール作りを急いでおり、すでに当選した衆議院議員の小選挙区総支部の設立が始まっています。しかし、組織が整うまでにはもう少し時間がかかりそうですので、正式なルールが決まるまでのつなぎとして、党員・サポーターの仮登録を始めました。

本登録への切り替えまでは、党費やサポーターの会費はいただきません。立憲民主党関連の情報をお知らせする予定で、ご意見をお寄せいただける仮登録者用の窓口も用意しました。仮登録は、下記いずれかへ必要事項を記入の上で。

- ① <https://goo.gl/fgj1mv>
- ② 別紙「仮登録申込書」を送付



2017総選挙を振り返って / 10月10日公示~22日投開票

10.02 立憲民主党に参加表明



夕刻、枝野氏が立憲民主党の立ち上げを表明。その直後に三鷹駅北口に立ち、聴衆と報道陣の前で参加の意志を表明しました。

10.09 18区市民連合の街宣



今回の選挙では党派を超えた野党共闘、市民連合のみなさんの応援をたくさんいただきました。深謝。

10.10 府中・大國魂神社 大鳥居前で出陣式



地元の大國魂神社で必勝祈願後、出陣式。16回目の選挙にして初めて名前タスキを伸子夫人の手を借りてつけました。

10.14 吉祥寺に枝野代表が応援に駆けつけた



「立憲民主党はあなたです」



「まっとうな政治」をまっすぐに訴える「えだのん」に、小雨にもかかわらずたくさんの方が耳を傾け、プラカードを手に応援してくださいました。

10.20 福山幹事長が激励に



福山哲郎氏には何度も応援に駆けつけていただきました。重い鞆を手に飛び歩く、フットワークのよい信頼できる幹事長です。

10.21 最後の瞬間まで



選挙戦の最終演説は吉祥寺で。菅はマイクを使える20時まで、その後も地元の自治体議員や市民連合のみなさんは肉声で駅頭で訴え続け、SNS部隊は発信を23時59分まで続けました。

10.22 投開票の結果、小選挙区で勝利!



選挙事務所まで支持者と報道陣が待ち構える中、24時少し前に「当確」情報が! 直近の過去2連続、辛い比例当選だったため、小選挙区での勝利に思わずバンザイ!

公営掲示板に貼り出した本番ポスターのキャッチフレーズは「政治に市民常識を！」

これは、菅直人が最初に国政選挙に挑んだ際のスローガンです。初心に立ち返って闘い抜くという決意を込めて、今回も同じキャッチフレーズを掲げました。

左:無所属で「あきらめないで参加民主主義をめざす市民の会」から立候補した、青年・菅直人です。

中・右:立憲民主党が立ち上がり、みなさんの共感と支持を得ていく中で、最終盤の決戦に向けて、ポスターを張り替えました。



●1976年総選挙ポスター



●今回の初・中盤のポスター



●ラスト3日間はこれに貼り替え